No. 171

長文読解 ULTIMATE CHEAT SHEET

長文読解の超絶原則30

読める人が無意識にやっている30の原則を「なぜそうなるか」つきで。初見の長文でも迷子にならない読み方の背骨。

Web版はこちら

ここだけ3行

1 筆者の主張は But・However の「後」にある

2 具体例は主張の確認。分かったら速度を上げる

3 設問はほぼ本文の順。段落を読んだらその場で解く

◆ 読む前に勝負は始まっている 4

いきなり1行目から読まない。地図を持ってから歩く。

☐ 1 タイトルと設問を先に眺める

何の話かを先に知ると、頭の中の関連知識(スキーマ)が動き出し、理解も記憶も上がる。設問は選択肢まで読まず「何が問われるか」だけ拾う。

☐ 2 第1段落は丁寧に読む

話題・問題提起・筆者の立場が置かれやすい。ここで話題を取り違えると、残り全部を誤読する。速く読むのは第2段落から。

☐ 3 どの文も主語と動詞をつかむ

長い文も骨格は S+V。修飾語(前置詞句・関係詞節・分詞)をカッコでくくると、言いたいことが一瞬で見える。

> The idea [that we only use 10% of our brains] **is** simply wrong.
> 「脳の10%しか使っていない」という考えは単に間違いだ。

☐ 4 段落ごとにテーマを1語で

読み終えた段落を「SNSの害」「反論」のように一言で言えるか確かめる。言えなければ、その段落の1文目と最終文を読み直す。

◆ 筆者の主張をつかむ8原則 8

英文の評論は「主張→支え」でできている。主張の位置にはサインがある。

☐ 1 主張は逆接の後

But / However / Yet の後が筆者の言いたいことになりやすい。前に置かれるのは一般論や他人の意見で、ひっくり返すための前振り。※後ろが他人の意見のこともあるので発言者は確認。

> Many people believe talent is everything. **However**, research shows that practice matters more.
> 才能がすべてだと多くの人は思っている。しかし研究によれば、練習のほうが重要だ。

☐ 2 一般論のサインに身構える

Many people think / It is often said / Traditionally / We tend to believe が出たら、後で「実は違う」と否定されることが多い。筆者の意見と混ぜない。※筆者が支持・前提にする場合もある。

> **It is often said that** money cannot buy happiness. Yet recent studies paint a more complex picture.
> お金で幸せは買えないとよく言われる。だが最近の研究はもっと複雑な姿を描いている。

☐ 3 譲歩の後が本音

It is true that / Of course / Certainly / Admittedly で一度認めてから but で本音を言う。「確かに〜。しかし…」の…が主張。

> **It is true that** smartphones are convenient, **but** they also steal our attention.
> 確かにスマホは便利だ。しかし私たちの注意も奪う。

☐ 4 繰り返される内容がテーマ

英語は同じ語のくり返しを避けて言い換えることが多い。the smartphone → the device → this technology のような言い換えの連鎖を追えば、主題が見える。※似た語でも別物のことがあるので文脈で確認。

☐ 5 強調表現に印をつける

It is important that / The point is / What matters is / should・must / in fact / indeed の後には筆者の重視する内容が来る。

> **What matters is** not how long you study, but how you study.
> 大事なのは、どれだけ長く勉強するかではなく、どう勉強するかだ。

☐ 6 筆者の問いの答えが主張

So why do we...? のように筆者自身が問いを立てたら、その答えが本文の核心。答えの位置(次の文か次の段落か)を探しにいく。

> **So why do** some languages disappear? The main reason is that children stop learning them.
> では、なぜ消える言語があるのか。主な理由は子どもがその言語を学ばなくなることだ。

☐ 7 not A but B は B が主張

否定してから肯定する形。instead / rather も「本当はこっち」の合図。※not only A but also B は A も B も肯定(新しい情報は B)。

> Success depends **not** on luck **but** on effort.
> 成功は運ではなく努力で決まる。

☐ 8 最初と最後で主張を照合

第1段落の問題提起と最終段落の結論(In short / Thus / In conclusion)は同じ主張の言い換えになることが多い。両方を読めば主旨問題は解ける。

なぜ効く？

なぜサイン語で要旨が取れる？ 説明文の読み手は、細部を外し、まとめ、組み立てて要旨を作る(Kintsch & van Dijk 1978 の「マクロルール」:削除・一般化・構成)。逆接などのサイン語は、どこを要旨に残すかを読み手に示す**実践的な目印**になる(研究そのものは逆接の位置を扱ったものではない)。

◆ 段落と構造の6原則 6

☐ 1 段落の1文目を重点読み

英語の説明文は「主題文(段落の要点)→支持文」の型で書くよう教えられる。まず1文目で要点を予想。ただし疑問文やつなぎの文で始まる段落は2文目以降、末尾で要点をまとめる段落もある。

☐ 2 具体例は分かったら加速

For example 以下は主張の確認用。言いたいことが分かったら速度を上げる。設問で問われたら戻ればいい。※例外・対比・条件を含む例は精読。

> Some animals use tools. **For example**, crows bend wires into hooks.
> 道具を使う動物もいる。例えば、カラスは針金を曲げてかぎにする。(前の文が主張)

☐ 3 抽象⇔具体を往復する

抽象的な主張が分からない時は具体例を読むと分かる。具体例が長くて迷子になったら、直前の抽象的な文に戻る。

☐ **4 対比は軸を表にする**

in contrast / whereas / on the other hand が出たら、何と何を、どの点で比べているか(軸)を確認。余白に A | B の2列でメモすると選択肢のすり替えに強くなる。

> Cats are independent, **whereas** dogs need constant attention.
> 猫は自立しているが、犬は絶えず手をかける必要がある。(軸＝手のかかり方)

☐ **5 因果は矢印の向きを確認**

A causes B / A leads to B / B results from A。result in と result from の取り違えは選択肢の定番のひっかけ。

> Stress **results from** lack of sleep.
> ストレスは睡眠不足から生じる(睡眠不足→ストレス)。

✕ result from を「〜という結果になる」と読む

☐ **6 段落に役割ラベルを貼る**

「問題提起」「例」「反論」「解決策」「結論」と余白に一言。全体の設計図が見え、要旨・タイトル問題が速くなる。

◆ 文と語の6原則 6

☐ **1 指示語はその場で戻す**

this / that / it / such / these の指す内容を、読みながら確認する。this は直前の語ではなく直前の文全体を指すことも多い。

☐ **2 言い換えを同じ物として追う**

人名→the scientist→she、問題→this issue→the challenge。名前が変わっても同じ物だと気づけば、登場物が増えて混乱することがない。

☐ **3 知らない語は品詞と＋−で読む**

意味が分からなくても「名詞か動詞か」「良い意味か悪い意味か」が分かれば読み進められる。全部の語を知る必要はない。

☐ **4 隠れた否定語を見落とさない**

hardly / seldom / few / little / fail to / far from / the last 〜 to は not が無くても否定の意味になる。

> She is **the last** person **to** tell a lie.
> 彼女はうそなど最もつきそうにない人だ。

☐ **5 時の表現は対比のサイン**

In the past / Once / used to と Today / Now / these days が出たら「昔と今の対比」。変わった点が設問になる。

> People **used to** write letters; **today**, most of us send messages instead.
> 人々はかつて手紙を書いていた。今日では、ほとんどの人が代わりにメッセージを送る。

☐ **6 誰の意見かを区別する**

according to / some argue / critics say は他人の意見。筆者がそれに賛成か反対かは、後に続く文で判断する。

> **Critics argue that** the plan is too expensive. I disagree.
> その計画は高すぎると批判する人もいる。私はそうは思わない。(筆者は反対側)

◆ 設問と時間の6原則 6

☐ **1 設問はほぼ本文の順に並ぶ**

多くの入試で、設問の順番は本文の順番に沿う。問1の根拠は前のほう、最終問は後ろのほうにあると予想して探す(内容一致は全体から出ることもある)。

☐ **2 段落ごとに設問を解く**

読み終えた段落に関わる設問はその場で解く。最後まで読んでから戻ると、根拠を探し直す時間がかかり、記憶も薄れる。

☐ **3 根拠は本文に線を引く**

正解の根拠は必ず本文にある。自分の常識や「ありそう」で選ばない。線を引けない選択肢は選ばない。

☐ **4 正解は言い換え、ダミーは字面**

正解は本文を別の語で言い換えることが多い。本文と同じ語が並ぶ選択肢ほど、中身のすり替えを疑う。

☐ **5 言い過ぎの語で切る**

always / all / never / only / completely のような強い語は、本文の強さ(often / some / may)と照合。本文より強ければ✕。

☐ **6 迷ったら印をつけて次へ**

1問に固執すると最後の大問が崩れる。2択まで絞ったら印をつけて進み、残り時間で戻る。

目から鱗

具体例を飛ばしてよい理由:例は主張を「分かりやすくする」ためにある。主張を理解できた時点で、例の役目はほぼ終わる。ただし**例の直前・直後の1文**は主張や例の位置づけを示すことが多いので必ず読む。※例外・反例を示す例は飛ばさない。

◆ 実演:5文を原則で読む

オリジナルの短い段落に原則を当てはめると、主張の位置が見えてくる。

英文	読み方
① Many people believe that multitasking makes us more productive.	一般論のサイン→後で否定されると予想
② It is true that we can listen to music while cleaning.	譲歩→まだ本音ではない
③ However, when two tasks both need our attention, our performance drops.	逆接→**ここが主張**。減速して線
④ For example, drivers who talk on the phone react more slowly.	具体例→③の確認なので加速
⑤ In short, doing one thing at a time is often the smarter choice.	要約→③の言い換え。主旨問題の答え

◆ サインを見たら次を予測

サイン	次に来るもの	読み方
However / But / Yet	筆者の主張・反対の内容	減速して精読
For example / For instance	前の文の具体例	分かったら加速
In other words / That is	前の文の言い換え	難しい文の答え合わせ
Therefore / Thus / As a result	結論・結果	設問の根拠になりやすい
It is true that 〜, but	譲歩→本音	but の後に線
Many people think	否定される一般論	後の逆接を待つ
In short / In conclusion	全体の要約	主旨問題の答え

◆ やりがちな読み方ミス 4

☐ ✕ ~~最初の数文の一般論を筆者の主張だと思う~~

○ Many people think の後に However が来るまで待つ

一般論は否定される前振りであることが多い

☐ ✕ ~~知らない単語のたびに止まって悩む~~
○ **品詞と＋－だけ決めて先へ進む**
多くは前後で言い換えられる。設問に関係なければ不要

☐ ✕ ~~具体例を一字一句ていねいに訳す~~
○ **例の直前の主張を確認して流す**
時間を失う最大の原因。例は主張の確認用

☐ ✕ ~~全部読んでから設問を解き始める~~
○ **段落ごとに該当設問を処理する**
根拠探しの時間が倍になり記憶も薄れる

◆ 確認テスト

1 Many students think homework is useless. ＿＿＿, studies suggest it helps memory. 空所に入るのは？
a Therefore　b However　c Moreover　d For example

2 not A but B の形で、筆者が主張しているのは？
a A　b B　c AとB両方　d どちらでもない

3 The delay resulted from a technical problem. の因果は？
a 遅れ→技術的な問題　b 技術的な問題→遅れ　c 両方向
d 因果なし

4 選択肢に本文と同じ語がそのまま並んでいる時の基本姿勢は？
a 必ず✕　b すぐ選ぶ　c 無視する　d すり替えを疑う

5 He hardly ever complains. の意味は？
a 彼はめったに不平を言わない　b 彼は不平を言い終えた
c 彼はいつも不平を言う　d 彼は激しく不平を言う

◆ 解答

1 However 一般論→逆接→主張の型
2 B 否定してから肯定。重点はB
3 技術的な問題→遅れ result from＝～から生じる
4 すり替えを疑う 正解は言い換えが多い
5 彼はめったに不平を言わない hardly ever＝めったに～ない

参考資料 Kintsch, W. & van Dijk, T. A. (1978). Toward a model of text comprehension and production. Psychological Review, 85(5)

もっと無料で学ぶなら
原田英語.com
究極の英単語帳(PDF印刷)・共テ単 キョウテタン・共通テスト満点チートシート・英文法大全・英作文超絶採点くん・時事英語ナビ…
受験に役立つ無料の英語アプリと、約2,800本の記事。
原田英語.com
ほかのチートシート（全439本・無料）